

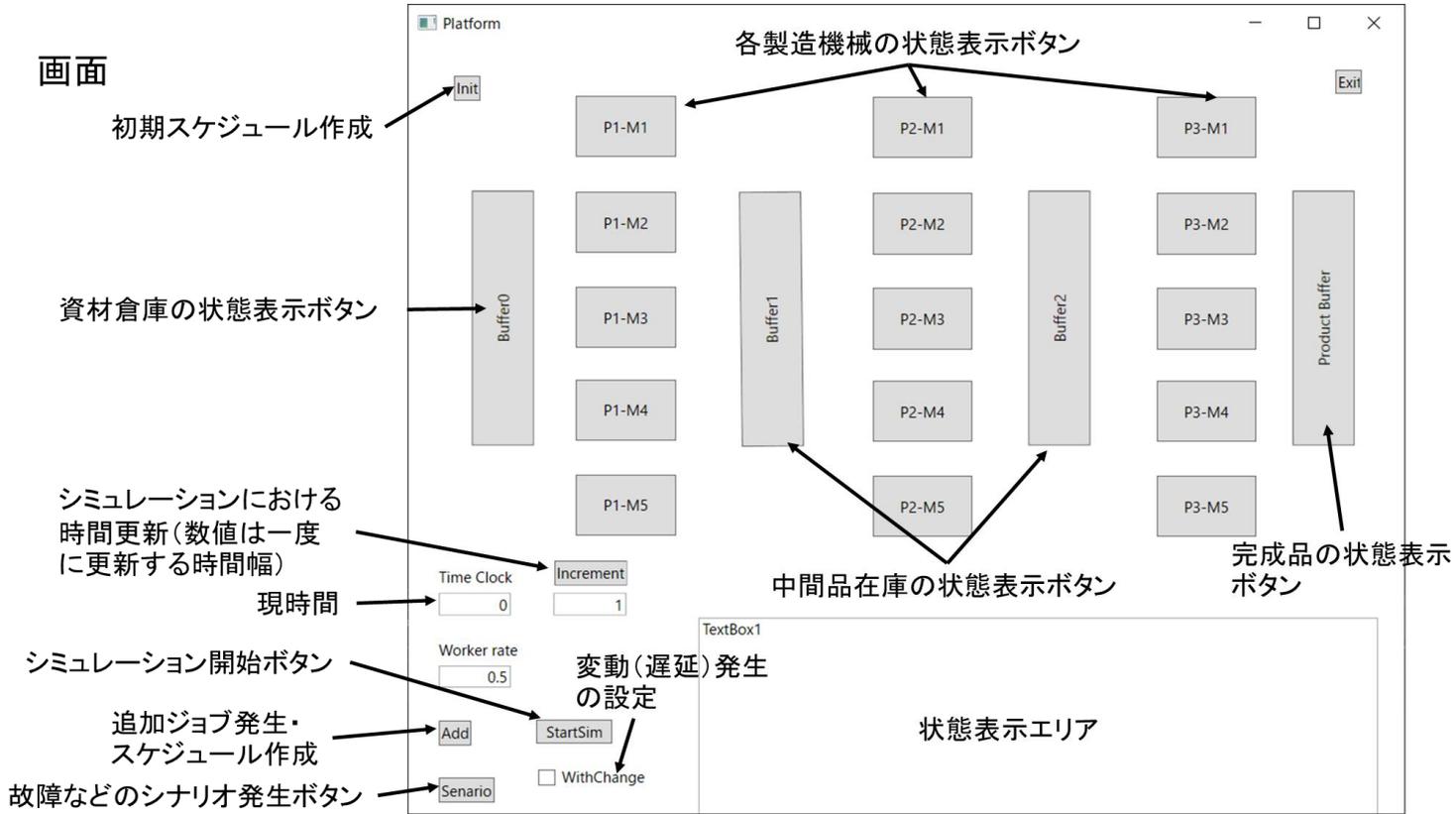
3. 自律的生産スケジューリング研究会 活動計画(1)

前年度12月以降活動が停滞しておりました。
体制を整え直すとともに、以下の項目について検討する。

- (0) 現状の確認, 研究会参加委員のニーズの再確認・共有
- (1) デモ構築のための体制構築および実装
- (2) 構築した環境において, 自律的スケジューリングによる影響評価の実施
 - ・自律的にスケジュール変更するタイミングの検討
 - ・加工機械における遅延発生時
 - ・加工機械の故障時
 - ・スケジュール変更方法の検討
 - ・遅延・故障が発生した機械のみ変更
 - ・影響のある機械も含めて変更
 - ・(初期)スケジューリングに用いる最適化手法の検討・導入
- (3) 研究会の課題・ニーズに関連した最新研究の共有

3. 自律的生産スケジューリング研究会 活動計画(2)

- (1), (2)のデモ環境(下図:構築中のデモ環境)に対し、
- 研究協力者として学生等を参画させデモ環境構築を迅速に進める
 - 作成されたデモ環境において、種々の実験並びにその評価の実施
 - 自律的生産スケジューリングを評価可能なシナリオの作成



3. 自律的生産スケジューリング研究会 活動計画(3)

- 活動日程(自律的生産スケジューリング手法の議論)
7月, 9月, 11月, 1月, 3月(予定)
対面(MSTC会議室)・オンラインを併用したハイブリッド形式にて実施予定
- デモ環境構築に向けた速やかな体制の構築
- スケジューリングや数理最適化が専門の研究者やソフトウェアベンダーの技術者などの外部講師を招いたセミナーの開催も検討
 - 昨年度開催できなかったため, 講師の検討も改めて実施
- スケジューリング・シンポジウム2025, 日本機械学会生産システム部門講演会など, 技術的に関連する学術集会に参加し, 更なる知見を得ることも検討している